

令和7年10月22日（水）文教委員会視察
③三重県



1. 三重県の概要・特色

- ・人口 1,695,415人
- ・世帯数 759,631世帯
- ・面積 5,774.48 km²
- ・予算 約8,366億円
- ・黒潮の影響で伊勢エビやアワビなど海の恵みが豊富。
- ・南北に細長く、エリアごとに気候・産業が大きく異なる。
- ・日本を代表する「伊勢神宮」や世界遺産の「熊野古道」など歴史的・文化的な遺産を有している。

2. 三重県の県勢・小中学校数

○2025年9月1日現在の人口 1,695,415人

（男 828,953人 女 866,462人）

○小学校数：360校（本校353校、分校7校）で、
前年度に比べ2校減少（廃校・公立2）

○中学校数：167校（本校165校、分校2校）で、
前年度に比べ1校増加（新設・公立1）

R6年度の小学校の不登校児童割合は2.33%、中学校の不登校生徒割合は6.47%

※いずれも年々増加傾向（引用：三重県HP【<https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0045700150.htm>】）

3. 視察概要

(1)日時

令和7年10月22日（水）

(2)訪問先

三重県立みえ四葉ヶ咲中学校

(3)場所

三重県津市柳山津興1239(県立みえ夢学園高等学校敷地内)

(4)調査事項

学びの多様化学校について

(5) 訪問先情報

- ・R7年4月開校 県内初の夜間中学校・学びの多様化学校
(元の建物は「県立みえ夢学園高等学校」敷地内にある研修棟)
- ・津駅からバス14分、徒歩1分
- ・通学方法は、徒歩、自転車、電車、バスなど

4. 開校までの経緯

○公立夜間中学の設置表明

～はじめは、「夜間中学のニーズがどれくらいあるのか」というところから～

- ・令和2年度の国勢調査で、県内の未就学者が1,845人（人口比0.12%）、最終学歴が小学校14,805人（人口比1.0%）であるとの結果
- ・ニーズ調査（R2年度）、入学希望調査（R4年度）をおこない、体験教室を実施（R3～R5）。累計申込者数37名。※不登校経験者が、体験教室をきっかけに進学

▶R2「夜間中学の修学機会確保の在り方に関する検討委員会」の開催

▶R4「三重県における公立夜間中学設置等に係るワーキングチーム」の開催

○夜間中学+学びの多様化学校として設置

～中学生においても、学びの機会がない子どもたちがいるのでは～

▶R6年（2024）度5月～

- ・「学びの多様化学校」の仮申請開始
- ・校章・キャラクターデザイン募集
- ・入学希望者説明会を6回実施

▶R6（2024）年度3月 文科省より「学びの多様化学校」の指定を受ける

▶R7（2025）年4月 開校

5. 学びの多様化コース

- ・対象者；三重県に住んでいる不登校・不登校傾向にある中学生
現在（R7年度）の生徒数：第1学年13人 第2学年8人 第3学年9人 計30人
(夜間中学コースは1～3年で合計44人)
- ・学習時間：0限目は15:20～16:00
夜間部は17:30～17:40から（一番遅い時間は20:15～20:55）
- ・月曜から金曜まで週5日、授業がある。1日の授業は1コマ【40分】の4限
(1週間に22コマ、自分で1週間の学習スケジュールを決める)
- ・夜間中学コースと一緒にになっているので、1日2時間くらい夜間中学コースの生徒と一緒に学ぶ時間がある
- ・年間の授業時間は770時間（通常は1015時間）

6. みえ四葉ヶ咲中学校の特徴

○探究的・協働的な学び、個に応じた学び、豊かな体験と実生活に役立つ学び、キャリア教育、健康・レジリエンス教育

- ・教科探求学習（国・理・英）

教科の中で、特に話す・聞くなどの言語活動や実験・観察など共同で学ぶことが効果的な学習については夜間中学コースと学びの多様化学校コースの同じ学年の生徒が交流して授業をおこなっている。



- ・美術・音楽・体育を合わせて、「パフォーマンスタイム」へ
 - ・社会・理科・技術過程・総合を合わせて、「ワールドスタディタイム」へ
- 多角的な視点を持つ力を育めるよう両コース、異学年の学校全体で実施。様々な体験が不足している生徒が多い。カカオからチョコを作る、藍を育てて藍染めをおこなう、綿花を育てるなど、体験型の学びをおこなっている。
- ・保健体育・技術過程・道徳・特活を合わせて、「よつばタイム」へ
 - ・週に1回の「マイタイム」では自分の好きなことをおこなう。（うどんづくり、プログラミングなど）

- ・すべての授業がオンライン配信をおこなっており、仕事や体調により教室以外の場所から参加することが可能。

○学習内容について

- ・中学の学習内容を学ぶ（必要な人は小学校の学習もできるが、小学校の勉強からおこなうということはしない。小学校から不登校だった生徒もいるが、中学生であるということを尊重する。）
- ・自分で学習計画を立て、一人または仲間と学ぶ。
- ・テストや家庭学習は基本的に無し。（相談しながら個別に対応）
- ・通知表も無し。（必要な人は、もらえる。文章評価か数値評価を選ぶことができる）
- ・制服は無し。
- ・食事は、希望者は「みえ夢学園高校」の食堂で給食のような食事をとることができる。

○教員・支援員のサポートが充実

- ・マイコーチ制（担任のほかに選ぶことができる。変えることもできる）
- ・校長 1 人、教頭 1 人、教諭 12 人、養護教諭 1 人、学校事務職員 1 人、非常勤講師合計 40 時間 6 人、学校業務支援員（週 4）2 人、スクールカウンセラー（1 日 4 時間、週 5 日）4 人、スクールソーシャルワーカー（1 日 7 時間、週 1 日）1 人、ALT（1 日 4 時間、年間 35 日）、スクールサポートスタッフ（1 日 4 時間、週 3 日）1 人、学習支援員（週 10 時間）2 人、教育相談員（週 3 時間）1 人、日本語指導アドバイザー（週 5 日）2 人…など。※勤務時間 13 時～21 時半
- ・スクールカウンセラーは 4 人で毎日交代制。男性・女性、聞き上手な人、元気に励ます人など様々なので、生徒は相性で選ぶことができる。
- ・「女の先生がいい」という声が圧倒的に多いため、女性の先生を多くしている。（男性の先生との関わりで学校に行けなくなったという女子生徒も多い）
- ・SSW は週 1 日 1 人だが、来年は倍にしてほしいと学校から教育委員会に要望を出している。福祉や医療につながっている生徒も多いので、先生だけでは抱えきれない。専門職のサポートがとても重要。

○義務教育の年齢を過ぎた人を対象とした夜間中学コースがある。

- ・不登校、不登校傾向にある中学生を対象とした「学びの多様化学校コース」だけでなく、義務教育を卒業していない人、義務教育を卒業したが十分に学ぶことができなかった人等を対象とした「夜間中学コース」がある。
- ・夜間中学コースに在籍する生徒は44人で、年齢構成は、10代が16人、20代が11人、40代が9人、50代が6人、60代が1人、80代が1人である。(令和7年10月時点)
- ・夜間中学コースでは、貧困、虐待、いじめ、発達障害、戦争など様々な理由で学齢期に学ぶことができなかった人たちが生徒として通っている。
- ・生徒は様々な背景を持っているが、現在は「学びたい」「学び直したい」という意思のもと通っている。

7. 夜間中学コースと一緒に学ぶことのメリット

- ・通常の中学校だと、同じ年代、同じ格好の子どもたちが「生徒」、大人が「先生」なので、生徒が学校を休んだり、教室から出たりしてしまうことで、いないことが目立ってしまう。様々な年代、属性、国籍の生徒がいるため、誰が先生で誰が生徒かわからない。気にする必要が薄れる。
- ・それが自分で組んだ授業スケジュールによって登校時間もバラバラなので、「遅刻」「早退」などが気にならない。(昼間フリースクールに行って、夕方学校に来る生徒もいる)
- ・不登校になったことで、自分の好きなことに関心が向かなかったり、自分に自信を失ったりしている子どもが多い。夜間中学の生徒と同じ授業を受ける中で(例えばパソコンの授業など)、先生ではない大人から「すごいね」と褒められると、先生に褒められるよりも生徒は喜ぶ。多様な大人との関わりの中で、成長していく。
- ・夜間学校に来る生徒も、引きこもりや不登校経験者が多い。一度もトランプをしたことがないなど、経験が乏しい。関わりの中で、お互いに成長し合っていく。

8. 大事にしていること

①楽しむ ②自律と尊重 ③体験と対話

・学びの多様化学校に来る子どもたちは、多くは家族や先生に勧められてくる。「この先どうなってしまうんだろう」と不安を抱えて入ってくる、大きな決断をしてやってくる生徒が多いので、まずは「学びたい」、「友達がほしい」と思ってもらえるようにしている。

・環境面の重要性。学校に行きたくないという生徒の中には学校のトイレが「暗い」、「汚い」というだけで行きたくないという子もいる。改修の時に、綺麗なトイレにすることはこだわった。また、清掃でいつもピカピカに整えている。(改修後の校舎を見て入学を決める生徒が増えた) 生徒の安心をつくることが大切。

・発達障害や精神疾患、起立性障害など、障害や病気を抱えている生徒も多いが、みえ四葉ヶ咲中学校では、学校に来られない、授業を受けられないことで、怒られる(注意される) ことがない。

・生徒たちは非常に苦しいことを乗り越えて学校に来ているので、とても優しい。しかし、学校に定期的に来られるようになったからと言って、決して傷が消えたわけではないこと。「もう大丈夫だろう」と、大人のペースで考えないこと。

9. 今後の課題・反省

・現在学びの多様化コースの生徒は3学年で30人であり、定員いっぱい。来年度は抽選予定。30人以上に増やすことはできないので、希望がある生徒を全員受け入れられない状況。

・学校に来ても授業に参加せずにボードゲームをおこなっている生徒に対し、教員の中にも「学校に来ているのだから、学力をつけなくていいのか、遊ぶだけでいいのか」という葛藤がある。しかし、遊びの中にも人との関わりがあり、成長や育ちがある。みえ四葉ヶ咲中学校は、『学ぶ意欲を育てる学校』だということを、都度教員たちと確認し合っている。これまでの学校でやってきたやり方は通用しない。生徒1人1人と向き合うことが大切。教員の発想の転換が必要。(校長先生談)

・みんなと一緒に学ぶのが難しい、今日は1人でいたい、などの個別の状況に対応できるように個人で学ぶスペースをたくさん作っておくほうがよい。

10. 所感

- ・建物自体は古いが、間取りやデザインもとても良く、中が明るくオープンであたたかい感じがした。学校という場所が苦手な子にとっては、特に明るさや清潔さ、雰囲気などの環境が大切だということがわかった。
- ・起立性障害などで朝が苦手な子もいる。また、遠くから通ってくる生徒もいるため、午後からのスタートや、自分で時間帯を選ぶことができるのも非常に良いと感じた。
- ・授業の様子を見学させてもらったが、どの教室も扉を開けたまま授業をおこなっていて、それぞれの教室からにぎやかな音が聞こえてくるのが新鮮だった。途中から来る生徒がいても、扉が開いているので、出入りが気にならない。たくさんの大目の目が自然と届くような配置になっている。
- ・少し目隠しになっているような図書スペースや、一人になれる場所、教室以外の居場所が複数あるのがよかった。図書スペースには本や漫画、新聞、ボードゲームが充実していた。
- ・先生たちがみんな明るい。先生と支援員、スタッフなどの差がない感じ。大学生ボランティアやサポートー組織「クローバーズ」などもあり、様々な人が支援をしている。
- ・入学希望者申説明会のあとに、個別面談、授業体験を2回おこなってからさらに面談をして、申込をする流れになっている。男の先生が苦手な場合には男の先生を付けてないなど、個別の対応を丁寧にしている印象。
- ・教員は、これまで通常の学校で働いていたが、2年間、夜間中学の設置準備をする中で研修をおこなってきたとのこと。教員も多様な生徒との関わりの中で、考えながら実践しているのではないか。様々な困難や障害、傷つきを抱えた生徒に対応する必要があるので、特別な研修は必須だと思う。
- ・校長先生からは今の通常の学校の状況について、「生徒1人1人に向きあうことが大切。先生が1人で見ているという状況は無理がある。異学年で学ぶ時間、自分のペースで学ぶ時間があるといいのでは」という話があった。学びの多様化学校のような学校があって生徒が選ぶことができることも重要である一方で、通常の学校でも、生徒が「行きたい」と思える（もしくは「行きたくない」と思わない）ようにするために工夫は、ソフト面・ハード面ともにまだまだできることがあるのではないかと感じた。

・教員とともに、福祉や医療と繋がられるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの存在は無くてはならない。教員や支援員同士の日頃からの情報共有や、相談しながら対応をおこなうことの重要性も感じた。担任以外にも複数の相談先があることは生徒にとっても重要だし、先生が一人で抱え過ぎないためにも重要。学校全体がチームとして子どもたちに向き合っている感じがした。少人数だからこそできることであり、貴重な学びの場になっている。杉並での学びの多様化学校設置においても、今回の視察で得た知見は多く活かせると思う。

